

西海ブロック水産研究及び水産業情報（県水産試験場等）

No. 61 平成20年8月（平成20年4月～6月分）

西海区水産研究所

		水産資源関係	水産海洋・漁場環境保全関係	水産増養殖関係	その他（水産利用加工、水産経済関係、災害等）
研 究 の 動 向	山口県	<p>*トラフグ親魚放流（4、5月）、魚群探索（5月）、モジャコ調査（5月）、アマダイ調査（5、6月）。</p>	<p>*間伐材魚礁調査（4、5、6月）、沖合定線観測（4、5、6月）。 *赤潮発生状況：4/15～5/30に萩市から長門市にかけてノクチルカ シンティランスが発生したが、漁業被害は見られなかった。</p>	<p>*アカアマダイの標識放流（4/19、22、5/22）：H19年に当センター及び（社）山口県栽培漁業公社で生産した稚魚2.2万尾（平均全長80～100mm）に、イラストマー標識または腹鰭カットを施し、萩市～長門市沖の漁場及び萩越ヶ浜漁港内に放流した。</p>	<p>*特になし</p>
	福岡県	<p>*筑前海：マアジ漁獲物調査、ケンサキイカ漁獲物調査、イカナゴ資源量調査、マダイ幼魚加入量調査。 *有明海：ガザミ調査、エツ調査、タイラギ調査、アサリ調査、サルボウ調査。 *豊前海：アサリ資源量調査、小型底びき網調査、ナルトビエイ調査。 *内水面：小石原川・佐田川調査、アユ標識調査（佐田川）。</p>	<p>*筑前海：浅海・沿岸・沖合定線調査、漁場環境保全事業（漁場環境調査、赤潮発生監視調査、貝毒発生監視調査）、水質監視調査。 *有明海：浅海定線調査、漁場環境保全事業（漁場環境調査、赤潮発生監視調査、貝毒発生監視調査）、水質監視調査、エチゼンクラゲの分布調査。 *豊前海：新漁業管理制度推進情報提供事業調査（旧浅海定線調査）、漁場保全調査、赤潮・貝毒調査。 *内水面：漁場環境調査（筑後川、矢部川）：水質調査、底生生物調査。ハス被害状況・産卵状況調査。</p>	<p>*筑前海：アワビ放流効果調査、磯藻場調査、アマモ増殖調査、フトモズク養殖試験、コイウイルス病検査、中間育成クルマエビのPAV検査、ノリDNA解析試験。 *有明海：ノリの品種判別試験、ノリの優良形質選抜法の開発、ノリの室内培養による品種評価法の開発試験、河川水由来の栄養塩の有効利用技術の開発調査。 *豊前海：カキ養殖調査。 *内水面：オイカワ資源回復関係：産卵場造成試験、採卵試験。</p>	<p>*筑前海：アサリ加工品試作。 *有明海：アサリの共同出荷試験、ノリのブランド化対策調査。 *豊前海：アカモク加工試験。</p>
	佐賀県	<p>*玄海：資源評価調査。 *有明：タイラギ稚貝生育調査、ウミタケ調査、漁獲物動向調査（市場調査）、アサリ・アゲマキ稚貝発生調査、稚仔魚調査。</p>	<p>*玄海：玄海漁場環境保全調査（玄海一円）、貝毒モニタリング（HPLC）、赤潮調査（玄海一円）、真珠養殖場調査、沿岸域水温・塩分自動観測（3地点）。 *有明：浅海定線調査、漁場環境モニタリング調査（底質、マクロベントス）、赤潮・貧酸素水塊防止対策事業調査、貝毒調査。</p>	<p>*玄海：放流クルマエビ追跡調査、カサゴ・オニオコゼの追跡調査、アコヤガイ・カサゴ・マダイ・ナマコの種苗生産、稚ナマコの減耗防止技術の開発試験。 アカガイ養殖試験： H19本養殖試験 生残率68～84% 平均殻長55～60mm H20本養殖試験 平均殻長34～50mm *有明：アゲマキ放流技術開発試験、アゲマキの囲繞提を使用した底質改善試験、ガザミ放流追跡調査、サルボウ浮遊幼生、稚貝発生調査、サルボウ漁場利用実態調査、壺状菌（海水）の検出調査、スミノリ原因細菌のモニタリング調査。</p>	<p>*玄海：「塩水生ウニ」（ムラサキウニ）製造指導。「燻製赤貝」（サルボウガイ）開発。 *有明：短期養殖試験のシカメガキ試食会を実施。</p>

西海ブロック水産研究及び水産業情報（県水産試験場等）

No. 61 平成20年8月（平成20年4月～6月分）

西海区水産研究所

		水産資源関係	水産海洋・漁場環境保全関係	水産増養殖関係	その他（水産利用加工、水産経済関係、災害等）
研 究 の 動 向	長崎県	<p>*シラス調査（五島灘：4、5月、橘湾：4、5月）、モジャコ調査（五島灘西沖：4、5月）、アマダイ調査（対馬：4～6月）、トビウオ調査（五島：6月、北松：6月、対馬：6月）、イワシ船曳網試験（西彼：6月）、定置網漁場調査（五島：5月）。</p>	<p>*沿岸定線調査（五島灘・西沖：4～6月）、浅海定線調査（有明海：4～6月）、クラゲ幼生調査（有明海：6月）、深場の天然礁調査（五島：5月）、赤潮調査（薄香湾：4～6月）、貝毒調査（対馬地区：4～6月）、（島原地区：4～6月）、干潟域環境・アサリ調査（小長井町：4～6月）、浮遊物調査（有明海：4～5月）。</p>	<p>*標識放流：ホシガレイ4月（西有家他、4cm、52,000尾）、アマダイ4月（上対馬11cm、4,400尾）。</p> <p>*追跡調査：放流ウニ（5月）、放流ホシガレイ（4～5月）、放流オニオコゼ（4～6月）、放流トラフグ（4～5月）。</p> <p>*天然資源、漁獲実態調査：トラフグ漁獲物調査（4～5月）、オニオコゼ漁獲物調査（4～6月）、ガザミ漁獲物調査（4～6月）。</p> <p>*種苗生産、中間育成： マハタ・クエ：5月からホルモン処理による採卵を行い、種苗生産試験を開始した。現在種苗を継続飼育中。 カワハギ：5月上旬から定置網漁獲物を用いて陸上水槽内自然産卵で受精卵を確保し、種苗生産試験を開始した。現在種苗を継続飼育中。 ホシガレイ：5月上旬に40mmサイズ7千尾を陸上養殖試験用として水産振興課に移管した。</p> <p>*トリガイ種苗生産試験、クマサルボウ種苗生産試験、タイラギ種苗生産試験、藻場調査、ベコ病の実態調査（シスト調査等）、トラフグのシュードカリグス症対策、トラフグに対するオキシテトラサイクリン効能試験、マハタ適正栄養要求試験、電解ろ過水槽の実用化試験。</p>	<p>*加工技術など指導（4～6月）：技術相談111件262人（内施設利用38件68人）、研修会5回94人、巡回指導24回57人、来訪者344人。</p> <p>*研究技術開発：発酵技術を利用した水産加工新製品の開発、イカ肉の高度有効利用技術の開発、イカ類の高品質保持輸送技術の開発、長崎県産魚を原料とした機能性醗酵食品（さかな味噌）の開発、塩干品高品質化原料調査研究事業。</p>
	熊本県	<p>*マダイ・ヒラメ・クルマエビの放流魚混獲率調査、カタクチイワシ資源量調査、卵稚仔調査・稚魚調査、藻場関係調査、アサリ干潟調査、タイラギ資源モニタリング調査。</p>	<p>*有害プランクトン等モニタリング調査、浅海・内湾定線調査、浦湾（養殖漁場）調査。</p>	<p>*持続的養殖生産推進事業、養殖魚介類生産安定対策事業、環境適応型リ養殖対策試験、海面養殖ゼロエミッション推進事業、環境適応型ノリ養殖対策試験。</p>	<p>*水産物付加価値向上事業：天草漁協大矢野支所に水揚げされるハモのカラーゲン量を調査中。</p> <p>*水産物安全安心確保推進事業。</p>

西海ブロック水産研究及び水産業情報（県水産試験場等）

No. 61 平成20年 8 月（平成20年 4 月～ 6 月分）

西海区水産研究所

		水 産 資 源 関 係	水産海洋・漁場環境保全関係	水 産 増 養 殖 関 係	その他（水産利用加工、 水産経済関係、災害等）
研 究 の 動 向	大分県	<p>*魚市場調査、立体的魚礁効果調査、標本船調査、タチウオ資源調査、アジ・サバ生態調査、アサリ資源調査、バカガイ資源調査（資源量少ない）。</p>	<p>*沿岸・浅海定線調査、貝毒調査、磯焼回復試験、ナルトビエイ生態調査（昨年より1ヶ月早い5月から駆除事業開始）、ミズクラゲ生態調査（今年度は特に出現量が多い?）、河川環境調査、イワメ生息実態調査（希少魚）。</p>	<p>*耐病性アコヤガイ、カワハギ、マハタ種苗生産試験、ヒジキ増養殖試験（養殖ヒジキ採集）、アワビ・クルマエビ・カサゴ・トラフグ・アサリ・マコガレイ・アイナメ放流効果調査、マハタ・マサバ・イワガキ・イタボガキ・ミルクイ・トリガイ養殖試験、ヒラメ・海藻・アワビ複合養殖試験、ヒラメ抗病性向上試験、ドジョウ稚魚生産供給及び生産技術指導、スッポン種苗生産、ホンモロコ養殖試験、県産アマゴ春採卵技術開発、アユ遡上調査、淡水魚養殖漁家巡回指導。</p>	<p>*ブリ肉質評価試験。</p>
	鹿児島県	<p>*漁海況週報の発行：第2249～2261報。 *モジャコ調査：4/5～14、流れ藻の分布は昨年同期、平年同期より多い。付着状況は昨年同期、平年同期より少ない。大きさは昨年同期、平年同期より小型。 *200カイリ水域内漁業資源調査：アジ、サバ、イワシ等の精密測定、カタクチイワシ、マイワシ等の卵稚仔調査等 *ビンナガ予報調査：5/21～6/11、調査船くろしおで漁場探索支援システムを活用しビンナガ魚群を探索。民間船へ情報提供した。漁場探索支援システムの塩分画像が漁場探索に有効であった。</p>	<p>*沖合定線海洋観測：1回/月実施。 *赤潮プランクトン定期調査：鹿児島湾ー4月2回、5月1回、6月3回実施。八代海ー4月1回、5月1回、6月2回実施。鹿児島湾では、6月中旬に、シャトネラマリーナ赤潮が発生。6/17に赤潮注意報、6/18に赤潮警報を発令。7/9に警報解除。漁業被害はなし。八代海では、長島町浦底湾で6月中旬に、ヘテロシグマ アカシオを確認。5/14に赤潮注意報発令。 *藻場造成試験（調査）：笠沙、指宿市岩本、奄美大島の藻場調査や藻場造成指導を実施。 *表面水温は、全海域月平均で4月はかなり高め、5月はやや高め、6月（中旬まで）は各海域の旬平均でほぼ平年並みで推移。 *黒潮北縁域（佐多岬～笠利埼間）は、離接岸を繰り返しながら月平均では4月は接岸、5月は離岸、6月は平均的な位置で推移。種子島東の黒潮流軸位置は前半は接岸～平均的な位置、後半は平均的な位置から離岸傾向で推移。</p>	<p>*シラヒゲウニ種苗生産試験：昨年11月に採卵した種苗を4/11～6/5の間に出荷。生産個数は、170千個。 *カンパチ種苗生産試験：5/15から種苗生産試験を開始。7/2、7/8にそれぞれ30千尾、28千尾（全長約40mm）を試験養殖用に出荷。別なラウンドの種苗を60トン水槽3面で飼育継続中。 *カサゴ種苗生産試験：1/15から種苗生産試験を行っていた種苗を5/9に放流用種苗として県栽培漁業協会に22千尾（全長41mm）を出荷。</p>	<p>*開放型実験棟（水産加工利用棟）の運用：4～6月、延べ49団体、98人利用。 *研修視察等の受け入れ状況：4～6月、45団体、822人。 *HPのアクセス件数：4～6月、122,264件（対前年比132%）。</p>

西海ブロック水産研究及び水産業情報（県水産試験場等）

No. 61 平成20年8月（平成20年4月～6月分）

西海区水産研究所

	水産資源関係	水産海洋・漁場環境保全関係	水産増養殖関係	その他（水産利用加工、水産経済関係、災害等）
<p>研究の動向</p>	<p>沖縄県</p> <p>*シラナミ産卵期調査：シラナミの産卵期を把握するため、月1回親貝を沖縄本島海域で約50個、石垣島海域で約20個の計70個内外を採集し、サイズ測定後、解剖し、生殖腺重量を測定した。なお、調査開始から3年が経過したため、5月で調査を終了した。</p> <p>*シラナミ類の資源調査：シラナミの資源状況を把握するため、川平保護水面内外において、モニタリングを実施中。</p>	<p>*特になし</p>	<p>*シャコガイ種苗生産</p> <p>ヒレナシジャコ 1-4mm稚貝200千個体 0.3-0.6mm稚貝300千個体</p> <p>ヒレジャコ 1-4mm稚貝200千個体 0.3-0.8mm稚貝1000千個体</p> <p>ヒメジャコ 2-40mm稚貝50千個体 1-2mm稚貝100千個体 0.3-0.6mm 稚貝240千個体</p> <p>シラナミ 2-4mm稚貝40千個体</p> <p>*シャコガイ増養殖技術開発事業：ヒメジャコ人工養殖基盤の開発試験を継続して実施中。現在は、人工基盤の水中硬化を抑制するための配合試験に取り組んでいる。</p> <p>*ヤイトハタ種苗生産： 1R・5月1日～6月6日に実施、種苗12万尾を生産。現在、二次飼育中。7月養殖用種苗として出荷予定。 2R・5月25日～7月4日に実施、種苗10万尾を取上。二次飼育中。</p> <p>*ヤイトハタ早期産卵試験：2008年1月から加温飼育したヤイトハタにGnRHaとHCGを4月に処理した。乾導法で受精卵（約15万粒）を得たが初期減耗により種苗生産は中止した。</p> <p>*チャイロマルハタの種苗生産試験：2008年5月23日～7月8日沖縄県栽培漁業センターより受精卵を受け入れ実施。種苗約2.5万尾を取上。二次飼育実施中。</p>	<p>*特になし</p>